

アクティブラーニングを取り入れた 防災学習の展開

林 武広（比治山大学）

防災に関する取り組みは甚大な被害を蒙った東日本大震災以降、国民的な重要課題となっており、その充実は喫緊の事項となっている。そのような中、2014年8月に広島市で発生した大規模土砂災害を目の当たりにし、防災に対する意識の高まりと様々の取り組みが推進されている。特に広島県は風化した花崗岩が広く分布していることから全国有数の土砂災害頻発地域となっている。

防災に関する学習は社会科，理科，国語科をはじめ道徳，特別活動，総合的な活動の時間や生活科でも扱う。ここでは総合的な時間での実施を想定した“土砂災害”に関する防災学習を紹介する。学習活動として、PC活用，グループによる調べ学習，ゲストティーチャーの活用，話し合い活動，協働・共同活動による地域防災マップ作り，成果発表等を取り入れる。

対象学年：5年または6年（5年理科「流れる水の働き」を学習した後が望ましい）

学習目標：地域（校区）で発生する可能性がある災害を調べ，自らの命を守る（自助），地域の人々でお互いに助け合う（共助）および公的機関からの支援（公助）の視点から災害への備え（主として自助）と災害発生時での最適な活動（共助，公助）を見出す。

学習過程：（5～6時間，コンピュータ活用含む）

①グループ（班）毎に模造紙または大きめの用紙を使って山，谷，川，道路を描いた簡易な地図を作成する。

- ・住宅地，学校，避難所（多くの場合，学校），班の児童の住居などを記入する。

②地域の防災情報を収集し，地図にまとめていく。

- ・PCを使って広島県防災ウェブ(<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/>)を閲覧する。
- ・災害の説明を参考にして種類と発生の仕組みを知る。
- ・ハザードマップ(http://www.sabo.pref.hiroshima.lg.jp/hiroshima_hm/index.html)を閲覧し，当該地域で発生が予測されている災害の種類と発生箇所を確かめ，上記の地図に描きこむ。
- ・必要に応じて発生が予測されている場所の見学を行い，避難経路も想定してみる。
- ・また，当該地域で過去に災害を経験した人がいれば，その時のことの経験談を聞く（ゲストティーチャーとしての対応も可）
- ・必要に応じて，防災の専門家（消防関係，研究者，防災士の資格保持者など）の講話を聞く。
必要に応じて“公助”の内容についても説明を聞く。

③災害が発生した場合にとるべき行動について自助，共助，公助の視点から児童一人一人及びグループで話し合う。

④個々人や家庭でできる「災害への備え」として重要なことについて児童一人一人及びグループで話し合う。

⑤グループ毎に成果を発表する。

- ・成果を他学年，保護者，地域とも情報を共有するために学級便りや学級新聞，掲示，学校のホームページ等も活用して内容を発信する。

⑥学習のまとめ